

川 端 香 男 里 先 生

略 歴 ・ 業 績 目 録

川端香男里先生略歴

昭和 8年12月24日	東京に生まれる
昭和27年 3月	東京都立新宿高等学校卒業
昭和27年 4月	東京大学教養学部文科 I 類入学
昭和31年 3月	東京大学教養学部教養学科フランス分科卒業
昭和33年 3月	東京大学大学院人文科学研究科 比較文学比較文化専門課程修士課程修了
昭和33年 4月	同博士課程進学
昭和35年10月	パリ大学人文学部 および東洋語学校留学（～昭和38年 4月）
昭和38年 5月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退
昭和38年 5月	北海道大学文学部専任講師
昭和41年10月	モスクワ大学言語学部派遣留学（～昭和42年 9月）
昭和44年 5月	東京大学教養学部専任講師
昭和46年12月	同助教授
昭和48年 4月	東京大学文学部助教授
昭和50年 4月	同ロシア語ロシア文学専修課程主任（～平成 6年 3月）
昭和55年 4月	東京大学文学部 西洋近代語近代文学専修課程主任（～平成 6年 3月）
昭和56年 4月	東京大学文学部教授
昭和58年 4月	東京大学大学院人文科学研究科 露語露文学専攻主任（～平成 6年 3月）
平成 6年 3月	同定年退官
平成 6年 4月	中部大学国際関係学部教授
平成 6年 4月	東京大学名誉教授

川端香男里先生 業績目録

I 著書

A) 単著

- 1 『ユートピアの幻想』潮出版社 1971. (1993 講談社学術文庫再刊)
- 2 『薔薇と十字架—ロシア文学の世界』青土社 1981.
- 3 『トルストイ』講談社 1982. («人類の知的遺産」52)
- 4 『ロシア文学史』岩波書店 1986. (岩波全書)
- 5 『ロシア語II—生きた文章を味わう』放送大学教育振興会 1989.
- 6 『ロシア—その民族とところ』悠思社 1991.

B) 編著

- 7 『ロシアの言語文化』放送大学教育振興会 1985.
- 8 『ロシア文学史』東京大学出版会 1986.
- 9 『神秘主義—ヨーロッパ思想の底流』せりか書房 1988.
- 10 『ロシアの言語文化II—ロシア的なものを求めて』放送大学教育振興会 1988.
- 11 『ロシアの言語文化I』放送大学教育振興会 1989.
- 12 『ロシアの文学』放送大学教育振興会 1994. (金澤美知子氏と共編)

C) 監修・校訂・編纂

- 13 川端康成『ある人の生のなかに』河出書房新社 1972.
- 14 川端康成『竹の声 桃の花』新潮社 1973.
- 15 川端康成『たんぽぽ』新潮社 1973.
- 16 川端康成『天授の子』新潮社 1975.
- 17 川端康成『舞姫の暦』毎日新聞社 1979.
- 18 川端康成『海の火祭』毎日新聞社 1979.
- 19 『基本文芸用語辞典』荒竹出版 1980. (武田勝彦氏と共同監修)
- 20 定本『北條民雄全集』上・下 東京創元社 1980. (川端康成氏と共同編纂)
- 21 『ロシア・ソ連を知る事典』平凡社 1989. (佐藤経明、中村喜和、和田春樹氏と)
- 22 大泉黒石『ロシア文学史』講談社 1989. (学術文庫)

D) 共著

- 23 「スタンダード・フランス語講座」『手紙と商業文』大修館書店 1971. (石井晴一氏と)
- 24 『シンポジウム英米文学』6 大橋健三郎編『ノヴェルとロマンス』學生社 1974.
- 25 『ロシア語Ⅰ』放送大学教育振興会 1989. (安岡治子氏と)
- 26 『世界文学史』(ロシア篇を望月哲男氏と執筆)講談社 1993.
- 27 『ロシア語Ⅰ—表現の基礎』放送大学教育振興会 1993. (金澤美知子氏と)
- 28 『ロシア語Ⅱ—生きた文章を味わう』放送大学教育振興会 1993. (金澤美知子氏と)

II 論文

- 29 「詩の言葉」『芸術心理学講座』2『芸術作品』中山書店 1957.10.
- 30 「小説のイズム」同上
- 31 「文芸の心理学」『芸術心理学講座』1『芸術と心理』中山書店 1957.12.
- 32 「レー尔蒙トフとレー尔蒙トフ批評」『スラヴ文化研究』1. 1958.9.
- 33 「ロマン主義—文芸(ロシア)」『講座近代思想史』IV 弘文堂 1959.3.
- 34 「ロシアの象徴主義」『學鐙』1964年3月号
- 35 「レー尔蒙トフの詩作とその特質」『外国語・外国文学研究』XII (北海道大学教養部) 1964.
- 36 「ソ連・東欧における最近の比較文学」『比較文学研究』20号 (東大比較文学会) 1965.10.
- 37 「チュッチェフ—その創作の特筆」『ロシヤ語ロシヤ文学研究』1号, 1969.10.
- 38 「ロシア・フォルマリズム再検討」『中央公論』1970.4月号
- 39 「ザミャーチンについて」『ロシヤ語ロシヤ文学研究』2号, 1970.10.
- 40 「ロシア幻想文学の系譜」『現代ロシア幻想小説』白水社 1971.9.
- 41 「ロシア文学とソビエト文学の間—『同時代人の肖像』によせて—」『世界』1971. 10月号
- 42 「<ロシア革命>の文学思想—社会主義リアリズムからフォルマリズムへ—」『日本読書新聞』1971.2月5日号
- 43 「ナボコフとロシア」『ユリイカ』1971. 8月号
- 44 「自然主義的リアリズムの克服—リペツリーノ『マヤコフスキーとロシア・アヴァンギャルド演劇』」『東京大学新聞』1972. 3月6日号
- 45 「比較文学の歴史と現状—ソ連の場合」吉田精一他編『比較文学』潮文社 1972.6.

- 46 「リルケとロシア」『ユリイカ』1972.6月号
- 47 「ロシア象徴主義とニーチェ」『比較文学研究』22号 1972.9.
- 48 「ロシアはアジアかヨーロッパか？」『自由』1972.10月号
- 49 「或る失われた世界—二十世紀ロシア文学の再発見—」『新潮』1973.1月号
- 50 「リアリズムと言語意識」『言語』1973.4月号
- 51 「メレシュコフスキイについて」『學鏡』1974.2月号
- 52 「ユートピア文学」『講座 比較文学』7 『西洋文学の諸相』東京大学出版会 1974.4.
- 53 「シャガールの銅版画挿絵『死せる魂』—ゴゴリ=ロシア的なるものへの郷愁」『みづゑ』1974.8月号
- 54 「ソ連における文学生活」『ソ連・東欧学会年報』III 1974.9.
- 55 「ホフマンとドストエフスキイ」『ユリイカ』1975.2月号
- 56 「今こそラブレールを読む時—渡辺一夫氏の訳業」『図書新聞』1975.5月5日号
- 57 「ロシア革命と亡命文学」『ユリイカ』1975.6月号
- 58 「ヴォギユエの『ロシア小説』をめぐって」『木村彰一教授還暦記念論文集』1976.2.
- 59 「世界観、世界像と小説—バルザックとドストエフスキ—」『岩波講座 文学』5 (『表現の方法』2) 1976.3.
- 60 「シャガールとロシア」『世界の巨匠シリーズ・CHAGALL』(美術出版社) 月報 1976.5.
- 61 「凍りついた雪どけ」『Foreign Literature 世界の小説—戦後30年—』朝日出版社 1977.5.
- 62 「ロシア・ロマン主義をめぐって」『文学』1977.10月号
- 63 「川端康成の名誉のために」『文藝春秋』1977.10月号
- 64 「幻想文学の領野—ためらいと懐疑」『現代詩手帖』1978.5月号
- 65 「チェーホフと批評家たち」『ユリイカ』1978.6月号
- 66 「遊びの言葉・作品の言葉」『言語』1978.8月号
- 67 「トルストイの〈位置〉について」『學鏡』1978.11月号
- 68 「シャガールと白ロシア」『週刊朝日百科・世界の美術』65 1979.6.24
- 69 「川端康成の青春」『文學界』1979.8月号
- 70 「ドストエフスキイと西欧」『現代思想』1979.9月号
- 71 「ロシア革命と≪20世紀ロシア・ルネッサンス≫」『文学』1979.9月号
- 72 「ロシアの近代化と絵画の黎明期」『ロシア国宝美人画展』(西部美術館カタロ

- グ) 1979.11.
- 73 「Gallomanieの大流行とその批判—世界文学にあらわれたフランス（ロシア編）」『基礎フランス語』1979.11月号
- 74 「星と夜空の夢想—近代ロシアの詩人たちの肖像」『i s』7号 1979.12.
- 75 「昭和史におけるドストエフスキイ像」『國文学—解釈と教材の研究』1980.2月号
- 76 「ロシア文学の言語理論」『講座 言語』4 『言語の芸術』大修館書店 1980.5.
- 77 「ドストエフスキイ—新しい翻訳・新しい評価」『文學界』1981.4月号
- 78 「トルストイからドストエフスキイへ」『昭和文学研究』第4集 1981.1.
- 79 「川端康成と露西亜文学」『川端文学研究』23 1982.2.
- 80 「戦闘的啓蒙主義を読む—井上ひさし『ことばを読む』に寄せて」『日本読書新聞』1982.5月10日号
- 81 「カザノヴァについてのマルジナーリヤ」『ユリイカ』1982.10月号
- 82 「失われし祖国を求めて（アンリ・トロワイヤ）」『新潮』1982.10月号
- 83 「ロシア・アヴァンギャルドの展望」『ユリイカ』1983.1月号
- 84 「壮大な〈革命〉と〈実験〉の再評価—ロシア・アヴァンギャルド関係書四冊を読む」『週間読書人』1983.2月7日号
- 85 「レニングラード」『続都市物語』読売新聞社 1983.4.
- 86 「ジョイスとロシア・モダニズム」『別冊英語青年 特集ジョイス』1983.6.
- 87 「生の深みをみつめて—トルストイとドストエフスキーの場合」『西洋における生と死の思想』有斐閣 1983.6.
- 88 「ロシア世紀末の果実《ミール・イスクーストヴァ》」『i s』30号 1985.12.
- 89 「スラヴ世界と西ヨーロッパ」『スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社 1986.6.
- 90 「呼び名が変わるとき—西欧諸語の対称詞にみる親愛表現」『言語生活』1986.7月号
- 91 「〈時〉と〈再生〉のメルヘン—大江健三郎『M/Tと森のフシギの物語』」『新潮』1987.3月号
- 92 「チャーホフの手紙」『學鏡』1987.4月号
- 93 「カンディンスキイとロシア」『現代の眼』（東京国立近代美術館ニュース）1987.7月号
- 94 「ゴルバチョフ政権—その成果と展望・文化」『ソ連・東欧学会年報』XVI 1987.9.
- 95 「フランスのソ連研究—個性重視と研究の多様性」『ソ連研究』第5号 1987.

- 10.
- 96 「プーシキンの詩における自然感情」『プーシキン再読』創元社 1987.12.
- 97 「ヨシフ・プロツキイの世界」『文學界』1987.12月号
- 98 「ロシア・ロマン派の幻想文学 —都市幻想・フォークロア・神秘思想」『幻想文学』21号 1988. 1.
- 99 「ロシアと日本」((1) —ロシア文学の日本近代文学への影響 (2) —対比的考察) 『文学の東西』放送大学教育振興会 1988. 3.
- 100 「〈辺境〉の商品—ロシアの森がもたらした宝物」『i s』40号 1988. 6.
- 101 「私的ロシア映画論」『国際交流』48号 1988.11.
- 102 「アイコンとルポーク」『i s』45号 1989. 9.
- 103 「「強い女性」の理想と現実—ロシア文学における女性像」『ヒロインの時代』国書刊行会 1989. 9.
- 104 「シェイクスピアとロシア」『シェイクスピアリナーナ』9号 1989.10.
- 105 「シャガールとヴィテブスク」『學鏡』1990. 2月号
- 106 「「土」のユートピア—文学と農村」東京大学公開講座『土』東京大学出版会 1990. 9.
- 107 「対照研究・ロシア語」『月刊 日本語』1990. 10月号~12月号
- 108 「日本人のロシア文学理解 —二葉亭四迷から埴谷雄高まで」『外交フォーラム』1991. 3月号
- 109 「「辺境」の東西南北—ロシアの無方位性の風」『i s』51号 1991. 3.
- 110 'Return of Exiles' 《The World Confronts Perestroika》, Slavic Center, Hokkaido University, 1991.
- 111 「ペレストロイカとバフチン」『文学はどこへ行くのか』日本社会文学会・オリジン出版センター 1991. 6.
- 112 「ロシア世紀末における性観念の変容」『i s』56号 1992. 6.
- 113 「「土」のユートピア—ルソオ ジェファソン トルストイ」『アーガマ』129号 1994. 1.
- 114 「ロシア・東欧の新時代—混沌の中の宗教界」『ロシア・東欧学会年報』22号 1994. 6.
- 115 「転換期の10年—「文化の学」の模索」『ロシア研究』20号 1995. 4.

III 小論・エッセイ

- 116 「ソルジェニツィンの運命」『新潮』1971. 3月号

- 117 「ロシア・フォルマリズム」『國文学—解釈と教材の研究』1971.8月号
- 118 「ユートピア論の台頭」『日本経済新聞』1971.9.23.
- 119 「「ユートピアへの提言」のために」『月刊 トレードピア』1971.10月号
- 120 「ヴィクトル・マクシーモヴィチ・ジルムンスキー」『比較文学研究』20号
1971.10.
- 121 「ベールイの周辺」『ロシア手帖』第2号 1971.11.
- 122 「バフチーンの『ラブレー論』」『文芸』1972.5月号
- 123 「父川端康成のこと」『新潮6月臨時増刊・川端康成読本』1972.6.
- 124 「わが父・川端康成」『現代』1972.6月号
- 125 「作家の死」『風景』1972.9月号
- 126 「事実・伝記・小説の間」『新潮』1972.9月号
- 127 「ロシアへの窓—E.Wilsonの近作によせて」『學鏡』1973.3月号
- 128 「ユートピアンたちの危機意識」『月刊 トレードピア』1973.9月号
- 129 「マルク・シャガール」季刊『本の手帖』IX 昭森社 1974.4.
- 130 「他人のものを質入れする権利」『ジュリスト』1974.11月1日号
- 131 「不運の人(レスコフ)」筑摩『世界文学大系』69 月報 1975.2.
- 132 「私の露西亜文学事始」『ちくま』1976.9月号
- 133 「ロシア幻想文学の一系譜」『文芸』1976.11月号
- 134 「文学を学ぶ」『東京大学新聞』1977.1月17日号
- 135 「寺田透氏のドストエフスキー論」『現代語手帖』1977.6月臨時増刊
- 136 「「幻想の都」ペテルブルグ」『月刊百科』1978.3月号
- 137 「ロシア文学におけるプーシキンの位置—生誕180周年によせて」『日本とソビエト』1979.7月1日号
- 138 「切手」『郵政』1979.10月号
- 139 「バイリンガル辞典の効用」別冊『窓』1980.3.
- 140 「『作家の日記』と日本」『ドストエフスキー全集』筑摩書房 月報18 1980.11.
- 141 「後記にかえて」 池田健太郎『わが読書雑記』中央公論社 1980.11.
- 142 「あとがき」 池田健太郎『チェーホフの仕事部屋』新潮社 1980.12.
- 143 「東大文学部露文科小史」『Rusistika』I 1981.
- 144 「ドストエフスキイと日本—没後百年にあたって」『教養学部報』1981.5月14日号
- 145 「花粉症と私」『中央公論』1981.7月号

- 146 「海外文学展望—「文豪」ブレジネフ」『文學界』1982.2月号
- 147 「解説」池田健太郎『かもめ評釈』（中公文庫）1982.4.
- 148 「ロシアにおける西欧化と近代化」『Rusistika』II 1982.6.
- 149 「川端康成と北條民雄」『毎日新聞』（夕刊）1981.2.14.
- 150 「海外文学展望—「ロシア作家」ナボコフ」『文學界』1982.4月号
- 151 「海外文学展望—ソビエトSFの現在」『文學界』1982.6月号
- 152 「川端康成記念館の資料について」『日本近代文学館』68号 1982.7.
- 153 「海外文学展望—ソ連の吟遊詩人たち」『文學界』1982.8月号
- 154 「海外文学展望—ヴィソツキイ再説」『文學界』1982.10月号
- 155 「海外文学展望—ソ連の「翻訳」」『文學界』1982.12月号
- 156 「『川端康成全集』完結にあたって」『波』1983.2月号
- 157 「ソロヴィヨフと日本」『新潮』1983.2月号
- 158 「海外文学展望—「二頭の馬」」『文學界』1983.2月号
- 159 「海外文学展望—アレクサンドル・ジノヴィエフ」『文學界』1983.4月号
- 160 「小林秀雄と川端康成」『文學界』1983.5月号
- 161 「海外文学展望—オドーエフツヴァのこと」『文學界』1983.6月号
- 162 「ドイツ・ロマン派とロシア」『ドイツ・ロマン派全集』第3巻 国書刊行会
1983.7. 月報
- 163 「ゴーゴリと日本文学」『Rusistika』III 1983.7.
- 164 「海外文学展望—二つの訃報」『文學界』1983.8月号
- 165 「海外文学展望—話題の回顧録」『文學界』1983.9月号
- 166 「海外文学展望—ヴォズネセンスキイのこと」『文學界』1983.12月号
- 167 「今こそトゥルゲーネフを」『窓』47-1, 1983.12.
- 168 「海外文学展望—ソビエト小説の二人の師」『文學界』1984.2月号
- 169 「海外文学展望—ソビエト版世界文学史」『文學界』1984.4月号
- 170 「世界の恋 漫遊旅行」『ほんのもり』3号 1984.4.
- 171 「古きロシアへの回帰—映画『ノスタルジア』にみるタルコフスキイの世界」
『読売新聞』（夕刊）1984.4.11.
- 172 「海外文学展望—『ノスタルジア』の背景」『文學界』1984.6月号
- 173 「ロシア文学とソビエト文学」『學鏡』1984.7月号
- 174 「ロシア・ロマン主義文学の特徴」『ロシア神秘小説集』解説 国書刊行会
1984.7.
- 175 「海外文学展望—D.S.ミルスキイのこと」『文學界』1984.8月号

- 176 「海外文学展望—ラスプーチンの新訳」『文學界』1984.10月号
- 177 「ゴゴリとロマン主義」『ゴゴリ』（ゴゴリ生誕175周年記念祭実行委員会編）1984.11.
- 178 「海外文学展望—サイフェルトの周辺」『文學界』1984.12月号
- 179 「ネヴァ川の洪水」『文藝春秋』1985.4月号
- 180 「海外文学展望—新しい中世文学観」『文學界』1985.4月号
- 181 「庭作りの楽しみ」『公明新聞』1985.6.29.
- 182 「海外文学展望—コーカサスからの声」『文學界』1985.8月号
- 183 「「逆転」と性的抑圧のアレゴリー—ゴゴリの『ヴィー』について」『妖婆死棺の呪いプログラム』1985.8.
- 184 「海外文学展望—詩人タルコフスキイのこと」『文學界』1985.12月号
- 185 「海外文学展望—ロシア・アヴァンギャルド」『文學界』1986.4月号
- 186 「国際化教育—日本人の創意による改革を」『公明』1986.8月号
- 187 「海外文学展望—「文学の沈滞」ソ連版」『文學界』1986.8月号
- 188 「海外文学展望—「農村派」の現在」『文學界』1986.12月号
- 189 「35年ぶりの出会い」『東京大学新聞』1986.12.23.
- 190 「世界のなかの川端文学」『川端康成展カタログ』神奈川近代文学館 1987.3.
- 191 「白夜への旅」『Aurora』No.1 1987.4.
- 192 「海外文学展望—第二の「雪どけ」」『文學界』1987.4月号
- 193 「ゴルバチョフ革命とソ連文化」『知識』1987.5月号
- 194 「川端康成展 展示資料について」『昭和文学研究』15 1987.7.
- 195 「海外文学展望—スターリン時代の告発」『文學界』1987.8月号
- 196 「近代文学名作の旅—プーシキン『大尉の娘』」『高校新報』1988.2.24.
- 197 「海外文学展望—サミズダートの現在」『文學界』1988.4月号
- 198 「幻想文学を読む—ロシア・東欧文学篇」『東京大学新聞』1988.6.28.
- 199 「海外文学展望—ペレストロイカの消息」『文學界』1988.8月号
- 200 「海外文学展望—ソ連外国文学紹介の新動向」『文學界』1988.12月号
- 201 「幻想のアンチ・ユートピア」『夜想』25 1989.4.
- 202 「海外文学展望—「祖国」へ帰ったナボーコフ」『文學界』1989.4月号
- 203 「海外文学展望—ザミャーチンの「帰還」」『文學界』1989.8月号
- 204 「ロシアの世紀末」『ロシア短篇集』国書刊行会 1989.9.月報
- 205 「海外文学展望—文学自由化の新たな展開」『文學界』1989.12月号
- 206 「水の精神分析学」『FRONT』1990.1月号

- 207 「海外文学展望—歴史は繰り返す」『文學界』1990.4月号
- 208 「ロシアとソ連」『開成会会報』71号 1990.6.
- 209 「ユングに至る道」『ブシケー』9号 1990.6.
- 210 「民衆文化とバフチーン」『聖教新聞』1990.7.10.
- 211 「海外文学展望—亡命者たちの「帰還」」『文學界』1990.8月号
- 212 「父の肖像—川端康成」『かまくら春秋』1990.9月号.10月号
- 213 「私のこの一冊—Leo Spitzer: Linguistics and Literary History」『東京大学新聞』1990.10.16.
- 214 「学会報告優秀賞、奨励賞の選考経過」『ロシア語ロシア文学研究』22号 1990.10月
- 215 「海外文学展望—A.ローセフのこと」『文學界』1990.12月号
- 216 「E.H.カー『浪漫的亡命者』」『ちくま』1991.2月号
- 217 「海外文学展望—ユートピアとアンチ・ユートピア」『文學界』1991.4月号
- 218 「井上靖さんと川端賞」『新潮』1991.4月号
- 219 「海外文学展望—飼い葉桶に繋がれた作家たち」『文學界』1991.8月号
- 220 「海外文学展望—「八月革命」の神話」『文學界』1991.12月号
- 221 「「集中豪雨」的学習について」阿部謹也編『私の外国語修得法』悠思社 1992.3.
- 222 「海外文学展望—二つの顔を持つ男の悲劇」『文學界』1992.4月号
- 223 「川端康成没後二十年」『文學界』1992.5月号
- 224 「今、トルストイを読むと」上.下.『地球の一点から』（法大西田勝研究室）43~44号 1992.5.~1992.6.
- 225 「川端康成の素顔」『新潮』1992.6月号
- 226 「川端康成展 構成にあたって—「読書、旅、交友」をキーワードに」『没後20年 川端康成展—生涯と芸術「美しい日本の私」カタログ』日本近代文学館 1992.6.
- 227 「海外文学展望—混沌の中のロシア」『文學界』1992.8月号
- 228 「世界文学名作紀行—レールモントフ『現代の英雄』」『高校新報』1992.11.25.
- 229 「海外文学展望—読んでいる暇はない！」『文學界』1992.12月号
- 230 「世界文学名作紀行—プーシキン『エヴゲーニイ・オネーギン』」『高校新報』1993.1.27.
- 231 「世界文学名作紀行—ツルゲーネフ『初恋』」『高校新報』1993.3.10.

- 232 「小田切進さんを悼む」『新潮』1993.4月号
- 233 「世界文学名作紀行—トルストイ『戦争と平和』」『高校新報』1993.4.28.
- 234 「海外文学展望—ほろび行く亡命文学」『文學界』1993.4月号
- 235 「世界文学名作紀行—ドストエフスキー『罪と罰』」『高校新報』1993.6.9.
- 236 「解説」『勝田吉四郎著作集』第1巻、第2巻『近代ロシア政治思想史』上・下 1993.6月～8月
- 237 「世界文学名作紀行—チェーホフ『桜の園』」『高校新報』1993.7.28.
- 238 「海外文学展望—ロシア神秘主義の伝統」『文學界』1993.8月号
- 239 「世界文学名作紀行—ザミャーチン『われら』」『高校新報』1993.9.8.
- 240 「世界文学名作紀行—レスコーフ『魅せられた旅人』」『高校新報』1993.10.13.
- 241 「ユートピアと桃源境」『アーガマ』No.128 1993.10.
- 242 「学会報告優秀賞選考経過」『ロシア語ロシア文学研究』25号 1993.10.
- 243 「世界文学名作紀行—ミハイル・ブルガーコフ『巨匠とマルガリータ』」『高校新報』1993.11.10.
- 244 「「細部」の人」『世界の文学セレクション36 チェーホフ』（中央公論社）月報 1993.12.
- 245 「海外文学展望—作家は預言者？」『文學界』1993.12月号
- 246 「オペラ『ドン・ジョヴァンニ』」リテレール別冊6『モーツァルトを聴く—私のベスト1』1994.3.
- 247 「海外文学展望—第二回ロシア・ブッカー賞」『文學界』1994.4月号
- 248 「ソルジェニーツィン—遅すぎた帰国」『北海道新聞』1994.6.6.
- 249 「ソ連からロシアへ」『ロシア・東欧学会年報』22号 1994.6.
- 250 「人生はすべて余生」リテレール『私の人生観』メタローグ 1994.9.
- 251 「「自由ロシア」とパリのカフェ」井上俊子編『思い出のカフェ』Bunkamura 1994.9.
- 252 「文学研究と西洋史学」『歴史と地理』1994.11月号
- 253 「軽井沢の思い出」『軽井沢高原文庫通信』26号 1994.12.
- 254 「米とロシア人」『国際研究』（中部大学 国際地域研究所）第11号 1995.1.
- 255 「レトリックについて」Antenna No.11.1 中部大学広報誌 1995.2.
- 256 「大江健三郎—思想家としての成熟をみる—講演集『あいまいな日本の私』を読んで—」『週間読書人』1995.3.3.
- 257 「ユーラシアの変動」『ロシア・東欧学会年報』23号 1995.4.

258 「ロシア知識人の群像」『人物世界史2 西洋編』山川出版社 1995. 5.

259 「海外文学展望—ロシアのエロス」『文學界』1995. 7月号

IV 翻訳

260 フェージン「世界の終わり」、ゾーシチェンコ「ヴィクトーリヤ・カジミーロヴナ」、イヴァーノフ「シェフル・イ・セプスのオアシス」、パウストーフスキ「モスクワの夏」『世界文学大系』93（『近代小説集』3）筑摩書房 1965. 1.

261 チェーホフ「桜の園」『世界文学全集27 チェーホフ』講談社 1968. 8.

262 ゴーリキイ「A.P.チェーホフ」、スタニスラフスキ「チェーホフとモスクワ芸術座」、アレクサンドル・チェーホフ「チェーホフの少年時代」、ミハイル・チェーホフ「休暇中のチェーホフ」池田健太郎編『チェーホフの思い出』中央公論社 1969. 7.

263 プーシキン「モーツァルトとサリエーリ」「石の客」「大尉の娘」『世界文学全集9 プーシキン/レールモントフ/ゴーゴリ』講談社 1969.11.

264 ザミャーチン『われら』講談社 1970. 4. (1975.4.「講談社文庫」、1992.1.「岩波文庫」で再刊)

265 R.ヒングリー『19世紀ロシアの作家と社会』平凡社 1971. 4. (1984.4.「中公文庫」で再刊)

266 ザミャーチン「洞窟」、ミハイル・ブルガーコフ「ディヤボリヤータ」川端香男里編『現代ロシア幻想小説』白水社 1971. 9.

267 エイヘンバウム「プーシキンの創作方法の諸問題」『世界文学大系』30 筑摩書房 1972. 3.

268 プーシキン「盗賊の兄弟」「バフチサライの泉」『プーシキン全集』2 河出書房新社 1972.11.

269 バフチン『フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化』せりか書房 1973. 1.

270 プーシキン「コーカサスの捕虜」「天使ガブリエルの歌」「ルスラーンとリュドミーラ」『プーシキン全集』1 河出書房新社 1973. 2.

271 ベールイ『魂の遍歴（コーチク・レターエフ）』白水社 1973. 4.

272 プーシキン「評論」『プーシキン全集』5 河出書房新社 1973. 5.

273 アンネンスキイ「レールモントフのユーモア」『世界文学大系』31 筑摩書房 1973. 7.

- 274 ピリニャーク『機械と狼』白水社 1973.10. (工藤正広氏と共訳)
- 275 プーシキン「ヴァジーム」「アンジェロ」『プーシキン全集』6 河出書房新社 1974.6.
- 276 ザミャーチン「チェーホフ」『世界批評大系』5 筑摩書房 1974.8.
- 277 パステルナーク「盲目の美女」『世界文学大系』85 筑摩書房 1974.9.
- 278 ソロヴィヨーフ「チュツチェフの詩」『世界批評大系』2 筑摩書房 1974.12.
- 279 ピエール・パスカル『ドストエフスキイ』ヨルダン社 1975.1.
- 280 バフチーン「叙事詩と小説」『世界批評大系』7 筑摩書房 1975.3. (1982.2. 新時代社『バフチン著作集』7 に再録)
- 281 EM.ド・ヴォギュエ「『ロシア小説』序文」『世界批評大系』4 筑摩書房 1975.8.
- 282 チュツチェフ、フェート、ブーニン「詩」『世界文学全集』38 講談社 1976.10.
- 283 ベールイ「ペテルブルグ」『世界文学全集』82 講談社 1977.11.
- 284 ジャック・ロンドン「海の狼」『世界文学全集』3 学研 1977.12. (山本政喜氏と共訳)
- 285 レールモントフ「現代の英雄」『世界文学全集』27 講談社 1979.9.
- 286 ドストエフスキイ『作家の日記』上・中・下 新潮社 1979-1980.
- 287 A.K.トルストイ「三百年後の出会い」『ロシア神秘小説集』国書刊行会 1984.7.
- 288 J.E.ボウルト『ロシア・アヴァンギャルド芸術—理論と批評、1902-34年』岩波書店 1988.6. (望月哲男、西中村浩氏と共訳)
- 289 トルストイ「イヴァン・イリイチの死」『ロシア短篇集』国書刊行会 1989.9.
- 290 カテリーナ・クラーク/マイケル・ホルクイスト『ミハイル・バフチーンの世界』せりか書房 1990.1. (鈴木晶氏と共訳)
- 291 アロン・グレーヴィチ『中世文化のカテゴリー』岩波書店 1992.10. (栗原成郎氏と共訳)

V その他

A) 連載もの

- 292 『ユリイカ』1972.1月号～10月号 「薔薇と十字架」
- 293 『NHKロシア語講座』1975.10月号～1976.3月号 (宇多文雄, 中島由美氏と共著)
- 294 『日本読書新聞』「文芸時評」1980.1月～6月

- 295 『読売新聞』（夕刊）「都市物語レニングラード」1982.9.7-10.1.
 296 『NHKラジオロシア語講座』「応用編」1986.4月～9月
 297 『NHKラジオロシア語講座』「応用編—ロシア文学の世界」1992.10月～1993.3月

B) 研究報告・科研等

- 298 「ロシア亡命文学序説」科研報告『ロシア亡命文学の研究』1979.3.
 299 「19世紀ロシア文学と西欧」科研報告『スラヴ世界と西欧』1981.3.
 300 「トルストイ—芸術家と思想家の間」『スラヴ研究センター 研究報告シリーズ』No.5 1981.9.
 301 「ロシアにおける西欧化と近代化—いわゆる「ロシア=アジア」説をめぐって」科研報告『18世紀ロシア文学の研究』1982.3.
 302 「ロシア・スラブ・西欧」『スラヴ研究センター 研究報告シリーズ』No.8 1982.9.
 303 「バフチーンとバフチーン派の現在」『スラヴ研究センター 研究報告シリーズ』No.21. 1987.3.
 304 「ロシアの世紀末—アンドレーエフスキイについて」『スラヴ研究センター研究報告シリーズ』No.28 1989.9.
 305 「ヴェルナツキイ学派について—ノオスフェーラをめぐって」（公開講演会要旨）『早稲田大学ロシア文学会ニュースレター』No.1 1993.8.
 306 「スターリン主義とロシア文化」科研報告『芸術表現におけるイデオロギー—全体主義と文化—』1994.3.

C) 書評・劇評等

- 307 「ソルジェニーツィン『煉獄のなかで』」『教養学部報』1970.7.10.
 308 「ソビエトの三冊の本：パステルナーク『わが妹 人生』、ソルジェニーツィン『1914年8月』、アマルリーク『気に染まぬシベリア行き』」『教養学部報』1972.9.16.
 309 「渡辺一夫『異国残照』」『朝日ジャーナル』1973.8月17日号
 310 「水野忠夫『マヤコフスキイ・ノート』」『日本読書新聞』1973.5.21.
 311 「『アルツィバーシェフ名作集』」『日本読書新聞』1975.5.5.
 312 「J.スタロバンスキー『道化のような芸術家の肖像』」『日本読書新聞』1975.12.1.

- 313 「ソルジェニーツィン『仔牛が櫛の木に角突いた』」『東京大学新聞』1976.6.21.
- 314 「大江健三郎『ピンチランナー調書』」『日本読書新聞』1976.12.13.
- 315 「エイヘンバウム『若きトルストイ』」『朝日ジャーナル』1976.12.17.
- 316 「ナボコフ『キング、クイーンそしてジャック』『断頭台への招待』」『日本読書新聞』1977.5.2.
- 317 「成瀬駒男『ルネサンスの謝肉祭 —ジャック・カロ』」『朝日ジャーナル』1978.9.8.
- 318 「高橋康也『ノンセンス大全』『道化の文学』」『英文学研究』（日本英文学会）Vol. LV, No.2 1978. December.
- 319 「桶谷秀昭『ドストエフスキイ』」『公明新聞』1978.12.25.
- 320 「シクロフスキイ『トルストイ』上・下」『日本読書新聞』1979.1.22.
- 321 「ギブソン『ドストエフスキーの信仰』」『本のひろば』1979.10月号（新谷敬三郎氏との対談書評）
- 322 「アンナ・ドストエーフスカヤ『アンナの日記』」『週間読書人』1979.11.26.
- 323 「吉本隆明『悲劇の解説』」『東京大学新聞』1980.3.20.
- 324 「ピエール・パスカル『ロシア・ルネサンス』」『週間読書人』1980.10.20.
- 325 「中本信幸『チェーホフの中の日本』」『北海道新聞』1981.6.16.
- 326 「同上」『公明新聞』1981.7.6.
- 327 「桑野隆『民衆文化の記号学』」『週間読書人』1981.9.30.
- 328 「アンリ・トロワイヤ『女帝エカテリーナ』」『東京大学新聞』1982.4.13.
- 329 「オリガ・イヴィンスカヤ『パステルナーク —詩人の愛』」『北海道新聞』1982.8.24.
- 330 「ナボコフ『ロシア文学講義』『ヨーロッパ文学講義』」『週間読書人』1982.9.27.
- 331 「チェーホフ、クニッペル『往復書簡』I」『東京新聞』1984.7.20.
- 332 「江川卓『ドストエフスキー』」『朝日ジャーナル』1985.3月8日号
- 333 「イヴァノフ／ロートマン他『ロシア・アヴァンギャルドを読む—ソ連芸術記号論』」『週間ポスト』1985.5月3日号
- 334 「アダーモビチ／グラニン『ドキュメント・封鎖・飢餓・人間』上・下」『週間読書人』1986.6.30.
- 335 「ドナルド・キーン『少し耳の痛くなる話』」『日本経済新聞』1986.7.13.
- 336 「カルロ・ギンズブルグ『ベナンダンティ』」『週刊ポスト』1986.7月25日号

- 337 「ジャクソン・エ・コープ『＜魔＞のドラマトゥルギー』」『図書新聞』1986.9.20.
- 338 「青山太郎『ニコライ・ゴーゴリ』」『週間読書人』1986.11.24.
- 339 「後藤明生『ドストエフスキーのペテルブルグ』」『東京人』1986.7・8月号
- 340 「メアリー・シートン=ワトソン『文学作品に見るソヴェト人の息吹』」『北海道新聞』1988.5.30.
- 341 「袴田茂樹編『もっと知りたいソ連』」『朝日ジャーナル』1989.1月6日号
- 342 「Brigitte Koyama-Richard: “Tolstoï au Japon”」『比較文学』33号1989.3.
- 343 「アブラーモフ原作（ドージン脚本）『兄弟姉妹』」『北海道新聞』1989.8.21.
- 344 「レニングラード・マールイ・ドラマ劇場『兄弟姉妹』」『東京新聞』（夕刊）1989.9.8.
- 345 「ルイバコフ『アルバート街の子供たち』1.2.」『日本経済新聞』1990.7.8.
- 346 「『ドイツ・ロマン派全集 11 ジャンパウル／クライスト』」『図書新聞』1990.10.6.
- 347 「ヘドリック・スミス『新ロシア人』上・下」『週刊ポスト』1991.6月7日号
- 348 「C. ギンズブルグ『闇の歴史—サバトの解説』」『思想』1993.4月号
- 349 「ポール・バロルスキー『とめどなく笑う—イタリア・ルネサンス美術における機知と滑稽』」『図書新聞』1994.3.12.

D) インタビュー・対談・座談会等

- 350 座談会「ユートピアと反ユートピア」（高階秀爾、吉田夏彦氏）『諸君』1970.9月号
- 351 インタビュー「ロシア・フォルマリズム発掘」、『図書新聞』1971.4.21.
- 352 共同討議「ピカソと二十世紀芸術」（粟津潔、高階秀爾氏）『ユリイカ』1973.7月号（8号）
- 353 座談会「ロシア研究によせて—文学研究の場で」（金子幸彦、木村彰一、池田健太郎氏）『窓』1978.3月号
- 354 鼎談「ロシア・フォルマリズムの現在—批評の大転換」（由良君美、新谷敬三郎氏）『早稲田文学』1979.2月号
- 355 座談会「新しいトルストイ像を求めて—今日に生きる思想と文学」（司会、阿部良雄氏、米川哲夫、菊地昌典氏）『教養学部報』1979.6.11.
- 356 対談「都市・民族・国家 三部作『ベルリン』完結に寄せて—ロシアとベルリン文化」（平井正氏）、『日本読書新聞』1982.7.26.

- 357 対談「西欧との出会い—帝政ロシアの文化」、三宅幸夫『歴史のなかの音楽』平凡社 1988. 8.
- 358 対談「対話の修辞学」（多木浩二氏）『現代思想（バフチン特集）』1990. 2月号
- 359 対談「ロシアを語る」（島田雅彦氏）、『週間東洋経済』1991. 3月29日号
- 360 対談「よみがえるロシア、たそがれのソ連」（中沢新一氏）『ユリイカ』1991. 5月号

E) 事典・年鑑等項目（大項目のみ）

- 361 「ロシア・ソビエトの文学」『現代教養百科事典』第9巻（文学）暁教育図書 1968. 4.
- 362 「レー尔蒙トフ」『万有百科大事典』第1巻（文学）小学館 1973. 8.
- 363 「世界文化—ソ連」『時事年鑑』1975～1978.
- 364 「ロシア・ソビエト文学」『講談社大百科事典 Grand Universe』27巻 講談社 1977.10.
- 365 「ソビエト文学」（8巻）「チャーホフ」（9巻）「トルストイ」（10巻）「プーシキン」（13巻）「レニングラード」「ロシア文学」（15巻）『平凡社大百科事典』平凡社 1984.11—1985. 6.
- 366 「ロシア・フォルマリズム」『コンサイス 20世紀思想事典』三省堂 1989. 4.
- 367 「アバンギャルド」「演劇」「芸術教育」「チャーホフ」「トルストイ」「プーシキン」「文学」「文芸学」「レニングラード」『ロシア・ソ連を知る事典』平凡社 1989. 8.
- 368 「ゴーゴリ」『新潮世界文学辞典』1990. 4.